



# 令和8年度学校経営計画書

学校名 三次市立十日市小学校

校長名 赤木 実

## I 学校の状況

学級数	21	児童数	524名	教職員数	62名
メールアドレス	tohkaichi-e@school.miyoshi.hiroshima.jp				
ホームページアドレス	http://www.school.miyoshi.hiroshima.jp/elementary/tokaichi/				

## II 学校教育目標

- 高い志をもち 夢の実現に向けて 自分らしく 他者とともに社会を創る 児童の育成

## III ミッション（地域社会における自校の使命・存在意義）

- ミッション 学校に関わる人が幸せになるための仕組みになる。
- ビジョン 人が輝く未来をデザインする。
- 経営理念 大切なひとに誇れる学校であり続ける。
- スクール ステートメント 学校は社会の公器であり、学校が変わることで、社会を変え、未来を変えていく。
- 育てたい子どもの姿 子どもたちが、自ら学びと生活をデザインする。
- 十日市中学校区のめざす資質・能力
  - ・ 主体性 自らの役割や責任を認識し、目的をもって意思決定する。
  - ・ 表現力 自他の立場を尊重し、表現する。
  - ・ 協働性 よりよい社会や生活を創るために、行動する。

## IV 重点事項（努力点）

- 観を磨く ファシリテーション<sup>※1</sup>力の向上と居場所感の提供により、考える教室文化を構築する。
- 対話を紡ぐ 共同エージェンシー<sup>※2</sup>を育て、内省と自己開示により自分に向き合い、公共性を育てる。
- 組織を繋ぐ チームの問いかけにより内外に価値を提供し、個の感情を大切にしたいリーダーシップを育てる。
- 器を育てる イノベーター<sup>※3</sup>として器を磨き、他者と関わりを通して自他を変革しエンゲージメント<sup>※4</sup>を高める。

## V 中心価値・行動規範（十小バリュー A to E）

- Act Boldly 大胆に行動する。
- Build Equal Trust 信頼し、信頼される。
- Create the First はじめてをつくる。
- Do a Professional Work プロフェッショナルであれ。
- Express as a Team チームとして取り組む。

## VI 現状分析

本校は、「広島県小学校教科担任制推進事業」「広島県小・中・義務教育学校生徒指導サポート実践校事業」の指定を受け、実践的な研究を進めてきた。

学習指導は、TKFモデル「T・創る」「K・語る」「F・振り返る」「S・焦点化する」をベースに、第4学年から教科担任制を実施し、インクルーシブ<sup>※5</sup>な環境を土台に「ことば」「理・教」「探究」の領域で教職員の専門性を発揮し、児童の思考力は高まりを見せている。生徒指導は、総合的な学習の時間や特別活動等で異年齢交流やエージェンシーを育てる取組により、主体性や協働性が育ってきている。さらに、学級になじみにくい児童に係りICT機器を活用した学校生活の計画や授業、保健室・サポートルームの支援により居場所感を育て、児童個々の状況に応じた取組を進めている。

働き方改革は、衛生委員会で月毎に業務改善について検討し、分掌部の裁量を拡大して課題に継続的に対応するなど、コアチームで取組を進めている。教職員のエンゲージメントは高い状態を維持しており、在校時間は低減傾向である。

しかし、学習指導では全員で授業に取り組む学びに課題があり、生徒指導では不登校児童が横ばい傾向であり学校で生活しづらい児童への、継続的な相談体制と社会的な繋がりを維持するための多様な支援が必要である。

働き方では、児童を基点に家庭・地域社会と建設的な関係を構築するとともに、教職員が器を磨き、強くして、他者との関わりの中で器を成長させ、組織文化を育み組織開発を進めることが重要である。

令和7年度の成果と課題を踏まえ、令和8年度は次の5点を重点として学校経営を進める。

- (1) 「めあて・対話・振り返り」の連動と「見方・考え方」を働かせる授業により、児童全員が考える教室文化を創る。
- (2) 非認知能力の育成により居場所感を高める環境づくりを進め、不登校傾向の児童への早期のチーム対応を行う。
- (3) 挑戦と越境の機会を創りリアルで深い学びを実現し、個や地域の課題に向き合う概念型の探究の実践を進める。
- (4) 学校再編と校舎改築を見据えて他校との交流や異年齢交流・帯学年交流を活性化し、エージェンシーを育てる。
- (5) 事業と領域チームにメンター機能をもたせ、目標設定をアレンジし個とチームの成長を促し組織開発を進める。

項目	三次市学力到達度検査		全国学力・学習状況調査			教職員の働き方	
	全国を上回った科目	三次市を上回った科目	自分にはよいところがある	学校に行くのは楽しい	夢や目標がある	勤務時間外の月平均在校時間	月30時間以内
令和4年度	17/20	13/20	81.4	82.4	79.3	25時間26分	58.6%
令和5年度	13/16	8/16	91.4	89.7	85.5	26時間08分	74.2%
令和6年度	15/16	12/16	90.7	86.0	81.4	23時間48分	86.2%
令和7年度	15/16	12/16	91.4	96.3	90.2	20時間33分	93.8%

※1 ファシリテーション 会議やミーティングを円滑に進める技法。  
 ※2 エージェンシー 変化を起こすために、自分で目標を設定し、振り返り、責任をもって行動する能力。  
 ※3 イノベーター 新しい技術や考え方を取り入れて新たな価値を生み出し社会的に大きな変化を起こす人。  
 ※4 エンゲージメント 戦略・目標を適切に理解し、自発的に自分の力を発揮する貢献意欲。  
 ※5 インクルーシブ 共生社会の実現に向けて、多様な子どもが共に学び成長できるような環境づくり。

Ⅶ 中期経営目標及び短期経営目標（令和8年度）

中期経営目標		短期経営目標	事業	具体的な取組・方策
確かな学力	考える学級文化の構築により、児童に生きて働く確かな知識の習得と探究による課題解決を図るとともに、「話す」「聞く」を重視し思考力・判断力・表現力を育成する。	「めあて」「対話」「振り返り」を連動したファシリテーション能力を高め、ICT機器による授業改善、概念型の探究学習等を通して、基礎学力の定着と活用する力の向上を図る。	全員参加型授業の基本的「基」推進事業	<ul style="list-style-type: none"> <li>○水平型と垂直型のファシリテーションを行き来し、児童全員が参加する多角的な対話を通して表現力を高める。</li> <li>○多様な考えを生かし、学びを深める「対話」「振り返り」の場面を、各教科等の特質や内容に応じて設定する。</li> <li>○授業や家庭学習等で、ICT機器やメタ認知活動を取り入れ、関係性や学習履歴を活用し概念的に振り返る。</li> </ul>
		インクルーシブな環境を土台に研究科目「ことば」「理・数」「探究」の領域で「見方・考え方を」働かせて学びを深め、授業研究で内省により授業設計力と授業の見方を育てる。	授業研究 充実事業	<ul style="list-style-type: none"> <li>○TKFモデルを「社会」「算数」「理科」で援用し、授業設計力を高め目標を達成する教科教育学の研究を行う。</li> <li>○見方・考え方を明示し、同じ原理の異なる表れに気付き実際に活用し、転移を促す学力を育む研究を行う。</li> <li>○概念型の探究を設計・実施・評価し、「Q-A map」による単元の構想と思考を促す問いについて研究を行う。</li> </ul>
豊かな心	公共性を育てるシチズンシップと居場所づくりの取組により、児童の自己効力感を高め、民主的で持続可能な社会の創り手を育成する。	社会生活への自律に向けて、児童が自分自身と、他者や社会と関わる非認知能力を育て、居場所感を高め、個人と集団のウェルビーイングを実現する。	生徒指導 充実事業	<ul style="list-style-type: none"> <li>○学校や社会のルールを守るとともに、楽しく学びやすい児童主体のルールを形成し、学校生活を改善する。</li> <li>○不登校予防に係る早期のチーム体制を確立し、学校生活を安心して過ごせる心理的安全性を確保する。</li> <li>○ソーシャルスキルの向上に継続的に取り組み、被受容感・充実感・自己存在感・安心感を促進する。</li> </ul>
		児童が責任をもって自分の意見を形成し、対話と合意をしながら意思決定し、異年齢交流や帯学年交流、地域課題の解決等を通して変化を起こす共同エージェンシーを育てる。	育成モデル事業 エージェンシー	<ul style="list-style-type: none"> <li>○児童が企画・運営する特別活動等を共同エージェンシーにより助言・支援し、主体性や協働性を育てる。</li> <li>○児童が好きや得意なスキルを生かし、失敗を乗り越えながら課題に果敢に挑戦し、解決に向けて行動する。</li> <li>○学会等で、誰もが意見を表明する場を設け、少数意見を吟味して納得解を形成する態度を育てる。</li> </ul>
健やかな生活	「時間」「空間」「仲間」を意識した体力づくりの推進と生活習慣、メンタルヘルスの向上により、児童が健康・安全で活力のある生活を送る力を高める。	児童個々の運動量を確保する活動と継続的な体力づくり、生活習慣を整える取組等により、児童が自らの課題をもち解決を図る実践力を高め、楽しさを実感しながら、体力と生活力の向上を図る。	ライフデザイン モデル事業	<ul style="list-style-type: none"> <li>○体育科の主運動に繋がる補助運動の工夫や体力テストに係る目標を設定し、自律的・計画的に体力の向上を図る。</li> <li>○生活習慣や睡眠、食事等の基本的なセルフマネジメント力の向上を図る。</li> <li>○ストレスマネジメントやマインドフルネスなど、感情をコントロールする力の育成を図る。</li> </ul>
信頼される学校	家庭・地域社会、学校内で建設的な関係を構築し、未来に向けた想いを継承し、よりよい社会や生活を創るために行動する学校づくりと働き方を進める。	分掌の事業と研究領域で、問いかけを通して本音で共創するチームワーキングで協働的・創発的に業務を進め、イノベーターとして価値を提供し、教職員個々の職能成長と組織の成熟を図る。	チームワーキング 推進事業	<ul style="list-style-type: none"> <li>○教職員の裁量を拡大し、教職員個々やチームの感情を大切にした事業を構築し、児童や組織等の成果に繋げる。</li> <li>○チームの目標設定をアレンジし、個性を生かし挑戦を促す会議の対話と価値創造の場づくりを工夫する。</li> <li>○事業と領域で多様な他者と繋がり、メンター機能を生かし自他を変革する意見交換を通して、職能成長を図る。</li> </ul>
		地域住民や民間企業・生産者等、児童の関心の深い人物や、自然環境、公共施設、伝統行事等と関わり、新しい挑戦と越境の機会を創出し、深い学びを実現する。	コミュニティ スクール 推進事業	<ul style="list-style-type: none"> <li>○地域や施設等での体験的な学習を通して、地域の課題について調べる方向を定めて、概念を形成する。</li> <li>○交流を通して発見したことを理解し、習得した概念を整理・一般化し、挑戦課題として言葉や行動で発信する。</li> <li>○学校再編を見据えて他校や他地域との越境の機会を創り、中学校区としての活動をコーディネートする。</li> </ul>

# VIII 学校経営構想図

MISSION  
学校に関わる人が幸せになるための仕組みになる  
VISION  
人が輝く未来をデザインする

**広島県の方針**  
「ひろしま未来  
チャレンジビジョン」  
「人づくり」への挑戦  
**広島版「学びの変革」  
アクション・プラン**  
広島で学んで良かった  
と思える、日本一の教育  
県の創造

**学校教育目標**  
高い志をもち 夢の実現に向けて  
自分らしく 他者とともに社会を創る 児童の育成  
**十日市中学校区小中一貫教育目標**  
夢をもち、志を立て、やるべきことをやりきる児童・生徒の育成

**三次市教育ビジョン**  
みよし結芽人  
～幸輝心～  
高い志をもち 夢や目  
標に向けて挑戦し 自立  
を図るとともに 多様な  
共創により 住み続けた  
いまち三次を実現する  
心豊かで たくましい ひ  
とづくり

**保護者・地域の願い**  
「歴史と伝統を引き継ぎ  
誇りをもって行動する子  
ども」  
「社会の一員として積極  
的に貢献する志をもった  
子ども」  
「子どもの笑顔あふれる  
安全・安心な学校」

**スクール ステートメント**  
学校は社会の公器であり、  
学校が変わることで、社会を変え、未来を変えていく  
**育てたい子どもの姿**  
子どもたちが、自ら学びと生活をデザインする

**中心価値・行動規範**  
Act Boldly  
Build Equal Trust  
Create the First  
Do a Professional Work  
Express as a Team

**めざす教職員像**  
観を磨く 対話を紡ぐ 組織を繋ぐ 器を育てる

## 確かな「学び」

## 豊かな「育ち」

